第六講『とはずがたり』

次の文章は『とはずがたり』の一節である。後深草院とその母である大宮院が嵯峨の離宮に前斎宮を招待し、後深草院に仕える作者二条も同席することになった場面である。後深草院は前斎宮を見て心を動かされる。読んで問いに答えよ。

大宮院、顕紋紗（けんもしや）の薄墨（うすずみ）の御衣、鈍色（にぶいろ）の御衣引き掛けさせたまひて、同じ色の小几帳（こぎちやう）立てられたり。斎宮、紅梅の三（みつ）御衣に青き御単衣（ひとへ）ぞ、なかなか(ア)むつかしかりし。御傍親（ばうしん）とてさぶらひたまふ女房、紫の匂（にほ）ひ五つにて、物（もの）の具（ぐ）などもなし。

斎宮は二十（はたち）に余りたまふ。(1)ねびととのひたる御さま、神もなごりを慕ひたまひけるもことわりに、花といはば、桜に喩（たと）へても、よそ目はいかがと誤（あやま）たれ、霞（かすみ）の袖（そで）を重ぬる隙（ひま）もいかにせましと思ひぬべき御有様なれば、まして隈（くま）なき御心の内は、いつしかいかなる御物思（ものおも）ひの種にかと、よそも御心苦しくぞおぼえさせたまひし。

御物語ありて、神路（かみぢ）の山（やま）の御物語など、絶（た）え絶（だ）え聞こえたまひて、「今宵（こよひ）はいたう更（ふ）けはべりぬ。のどかに、明日（あす）は嵐（あらし）の山（やま）の禿（かぶろ）なる梢（こずゑ）どもも御覧じて、御帰りあれ」など申させたまひて、(イ)わが御方（かた）へ入らせたまひて、いつしか、「いかがすべき、いかがすべき」と仰せあり。思ひつることよと、をかしくてあれば、「幼くより参りし験（しるし）に、このこと申

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

しかなへたらむ、まめやかに心ざしありと思はむ」など仰せありて、やがて御使に参る。ただ大方なるやうに、「御対面うれしく、御旅寝（2）すさまじくや」などにて、忍びつつ文あり。氷襲の薄様にや。

　知られじな今しも見つる面影のやがて心にかかりけりとは

更けぬれば、御前なる人もみな寄り臥したる。御主も小几帳引き寄せて、御殿籠りたるなりけり。近く参りて、事のやう奏すれば、御顔うち赤めて、いと物ものたまはず、文も見るとしもなくて、うち置きたまひぬ。「何とか申すべき」と申せば、「思ひよらぬ御言の葉は、何と申すべき方もなくて」とばかりにて、また寝たまひぬるも（ウ）心やましければ、帰り参りて、このよしを申す。

「ただ、寝たまふらむ所へ導け、導け」と責めさせたまふもむつかしければ、御供に参らむことはやすくこそ、しるべして参る。甘の御衣などは（3）ことごとしければ、御大口ばかりにて、忍びつつ入らせたまふ。

まづ先に参りて、御障子をやをら開けたれば、ありつるままにて御殿籠りたる。御前なる人も寝入りぬるにや、音する人もなく、小さらかに這ひ入らせたまひぬる後、いかなる御事どもかありけむ。うち捨てまゐらすべきならねば、御

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

上臥（うへぶ）したる人のそばに寝（ぬ）れば、今ぞおどろきて、「こは誰（た）そ」と言ふ。「御人少（ひとずく）ななるも御いたはしくて、御宿直（とのゐ）しはべり」と答（いら）へば、まことと思ひて物語するも、用意なきことやとわびしければ、「眠（ねぶ）たしや。更けはべりぬ」と言ひて、空眠（そらねぶ）りして居（ゐ）たれば、御几帳（みきちやう）の内も遠からぬに、いたく御心も尽くさず、はやうち解けたまひにけりとおぼゆるぞ、(エ)あまりに念（ねん）なかりし。心強くて明かしたまはば、いかにおもしろからむとおぼえしに、明け過ぎぬ先に帰り入らせたまひて、「桜は匂ひはうつくしけれども、枝もろく、折りやすき花にてある」など仰せありしぞ、さればよとおぼえはべりし。

（『とはずがたり』による）

（注）

○顕紋紗――平織りで種々の文様を織りだした薄い絹。
○斎宮――伊勢神宮に仕える未婚の内親王。ここでは後嵯峨院皇女愷子内親王のこと。このときすでに斎宮を退いている。
○傍親――おそばづきの縁者。
○神路の山――伊勢神宮の南方にある山。
○禿なる梢――落葉して裸になった梢。
○氷襲――白い和紙を二枚重ねたもの。
○大口――大口袴の略。束帯の時、表袴の下にはく袴。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線の箇所（1）（2）（3）の語句の意味を記せ。

（1）＝

（2）＝

（3）＝

問二　傍線の箇所（ア）「むつかしかりし」は何に対するどのような感情を表したものか。二十字以内で説明せよ。

問三　傍線の箇所（イ）「わが御方へ入らせたまひて、いつしか、『いかがすべき、いかがすべき』と仰せあり」を口語訳せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線の箇所（ウ）「心やましければ」とあるが、作者にそのような印象を覚えさせたのは、斎宮のふるまいのどのような所か。五十字以内で説明せよ。

問五　傍線の箇所（エ）「あまりに念なかりし」とあるが、作者がそのように思ったのはなぜか。その理由について四十字以内で説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　復習問題

①「まめやかに聞こえたまへば」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　やさしげにたしなめなさるので
イ　真剣に説得なさるので
ウ　優美に申し上げなさるので
エ　意地悪に申し付けなさるので

②「ことごとしく」の意味は何か。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　荒々しく　イ　大げさに　ウ　確かに
エ　準備おこたりなく　オ　大声で

③「やをらに」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　すばやく　イ　そっと　ウ　突然
エ　不作法に　オ　わずかに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　次の文章を読んで、傍線部の語句の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

輔親、「とく夜の明けよかし」と待ち明かして、いつしか起きて、寝殿の南面をとりしつらひて、営みゐたり。

ア　いつのまにか　　イ　いつものように　　ウ　たびたび
エ　早くから　　オ　遅くに

⑤　次の文章を読んで、傍線部の現代語訳として最も適当なものを、後の中から選べ（文章の一部省略）。

姫君の御夢に、唐絵の様したる人、琵琶を持て来て、「〈中略〉」とて、失せぬと見給ひて、おどろき給へれば、暁がたになりにけり。

ア　胸騒ぎがなさったので
イ　意外にお思いになって
ウ　お目覚めになると
エ　ため息をついていらっしゃると
オ　びっくりなさっていらっしゃると

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　模範解答

問一　（１）成長し美しく整っている
（２）興ざめでしょうか
（３）仰々しいので

問二　斎宮の派手な色の衣装に対する不快な感情。（二十字）

問三　後深草院がご自身のお部屋に入りなさって、早くも、「どうすればよいか、どうすればよいか」とおっしゃる。

問四　院からの恋文を見ようともせず、返事を催促しても、何も言うことはないと寝てしまうような手応えのない所。（五十字）

問五　斎宮が気強く後深草院の誘いを拒むことを期待したが、すぐに心を許し受け入れたから。（四十字）

〈現代語訳〉

大宮院が、顕紋紗の薄墨色のお着物に、濃い鼠色のお着物を羽織りなさって、同じ色の小几帳を立てなさっている。前斎宮が、紅梅襲の小袖を三枚重ねたお着物に青い単衣のお着物（を着なさっているのが）、かえって見苦しかった。おそばづきの縁者としてお仕えなさる女房が、紫から白へだんだん色が薄くなるように五枚の着物を重ねて着て、礼装用の裳や唐衣なども ない。

前斎宮は二十歳を過ぎていらっしゃる。成長し美しく整っているご様子は、（伊勢の）神も別れを惜しみなさったのももっともで、花と言うならば、桜にたとえても、はた目にはどうであろうか（いや、桜にたとえてもおかしくはない）と見間違われ（るほど美しく）、（桜の花を隠す）霞のように（顔を隠すために）袖を重ねるその隙間もどうしようかしらと思うにちがいないご様子なので、まして抜け目のない（後深草院の）お心の内は、（前斎宮が）早くもどんなお悩みの種（になっている）だろうかと、よそながらも（前斎宮のことが）お気の毒に思われなされた。

お話をなさって、伊勢神宮のお話など、少しずつ申し上げなさって、（後深草院が）「今夜はひどく夜が更けました。ゆっくりと、明日は嵐山の落葉して裸になった木々の梢を御覧になって、お帰りなさい」など申し上げなさって、ご自分のお部屋へ入りなさっ

て、早くも（私に）、「どうすればよいか、どうすればよいか」とおっしゃる。思ったとおりだよと、（私が）おかしく思っていると、（後深草院が）「（お前が）幼い時から（私に）お仕えしたしるしに、このこと〔＝前斎宮との逢瀬〕を（前斎宮に）申し入れて実現させたとしたら、本当に（私に対する）愛情があると（私は）思おう」などおっしゃって、（私は）すぐに（前斎宮のもとへ）お使いに参上する。（後深草院からは）ただよくある様子で、「お目にかかれてうれしく（思います）、ご外泊は興ざめでしょうか」などで、こっそりと手紙がある。氷襲の薄様の紙であっただろうか。

知られじな……＝ご存じないでしょうね。たった今お会いした（あなたの）面影がそのまま（私の）心にかかって離れなかったのだとは。

夜が更けたので、（前斎宮の）おそばにいる女房も皆寄りかかって寝ている。（前斎宮）ご本人も小几帳を引き寄せて、おやすみになっているのであった。（私が）近くへ参上して、事情を（前斎宮に）申し上げると、（前斎宮は）お顔を少し赤らめて、たいして何もおっしゃらず、手紙も見るというふうでもなくて、置きなさった。（私が）「（後深草院には）何と申し上げましょうか」と申し上げると、（前斎宮が）「思いも寄らないお言葉は、何とも申し上げようもなくて」と言うだけで、またおやすみになってしまったのももどかしいので、（私は後深草院のもとへ）帰参して、このことを申し上げる。

（後深草院が）「とにかく、おやすみになっている所へ案内しろ、案内しろ」とお責めになるのもわずらわしいので、お供に参上するのはたやすいこと、（私は）案内して（前斎宮のもとへ）参上する。（後深草院は）甘のお着物〔＝上皇が着用する小直衣〕などは仰々しいので、大口袴だけで、（前斎宮のいる御几帳の内側へ）こっそりとお入りになる。

まず（私が）先に参上して、襖をそっと開けたところ、（前斎宮は）さっきのままでおやすみになっている。おそばにいる女房も眠り込んでしまったのだろうか、音を立てる人もなく、（後深草院が）体をかがめて忍び込みなさった後、どんな事々があったのだろうか。（後深草院を）お残し申し上げてよいことではないので、おそばに宿直している女房の傍らに寝ると、（その女房は）今になって目を覚まして、「これはどなたです」と言う。（私が）「お人が少ないようなのもお気の毒で、おそばに宿直をしています」と答えると、本当だと思って話をするのも、不用意なことよと（私は）情けないので、「眠たいわ。夜も更けました」と言って、眠ったふりをしていると、御几帳の内側も遠くないので、（前斎宮は）それほどお心を痛めることなく、早くも（後深草院に）心を許しなさったのだなあと思われるのは、非常に残念だった。（前斎宮が）気強く（後深草院の誘いを拒んで）夜を明かしなさっ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たならば、どんなにおもしろいだろうと思われたのに、すっかり夜が明けないうちに（後深草院はご自分の部屋に）お戻りになって、「桜は色合いは美しいけれども、枝はもろく、折りやすい花であるよ」などおっしゃったのは、思ったとおりだよと思われました。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○むつかし【難し】…①**不快である**。　②わずらわしい。　③気味が悪い。
○ねぶ…①**年をとる**。　②おとなびる。
○ことわり【理】…①**道理**。　②**理由**。
○くまなし【隈無し】…①曇りや**影がない**。　②**なんでも知っている**。　③隠しだてがない。
○しるし【徴・験】…①前兆。　②**霊験**。効き目。
　【標・印・証】…①目印。　②証拠。　③合図。
　【著し】…①**はっきりしている**。　②予想通りだ。
○まめやかなり【忠実やかなり】…①**誠実だ**。　②本格的なさま。
○すさまじ【凄じ】…①**興ざめだ**。　②さむざむとしている。　③程度がはなはだしい。　④あきれたことだ。
○しのぶ【忍ぶ】…①たえる。　②**秘密にする**。　③**がまんする**。
○やすし【易し】…①**容易である**。　②～しがちである。
　【安し】…①**安らかである**。　②安っぽい。
○しるべ【導・知る辺】…①**導き**。**案内すること**、また、その人。　②知り合い。
○ことごとし【事事し】…**大げさだ**。
○やをら…**そっと**。
○おどろく【驚く】…①**はっとして気づく**。　②**目が覚める**。　③びっくりする。
○にほひ【匂ひ】…①**色が美しく映えること**。　②香り。　③栄華。
○さればよ…**やっぱりだ**。思ったとおりだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講　解答解説

〔解説〕

①「まめやかなり」は、重要単語で「誠実だ・真面目だ」の意味。その解釈ができているものは、イ「真剣」のみ。よって、正解はイ。

②「ことごとし」は、重要単語で「大げさだ」の意味。よって、正解はイ。

③「やをら」は、重要単語で「そっと」の意味。よって、正解はイ。

④「**いつしか**」は「いつ」と訳す場合もあるが、**問題になっていれば、「早くも」や「早く」から考える**のがコツ。もちろん文脈判断は必要であるが、本設問でも直前が「とく（＝早く）夜が明けよ」と待ち明かして「いつしか起き」なので「早くから」でおかしくない。よって、正解はエ。

⑤「おどろく」は、重要単語で「はっと気づく・目が覚める」の意味。現代語と同じ「びっくりする」という意味もないわけではないが、やはり問題になっていれば、**現代語とは違う意味から考える**のがコツ。さらに、文脈判断でも直前が「夢に～見た」とあり、「おどろいた」ら「暁がたになっていた」ということから、「目が覚める」でおかしくない。よって、正解はウ。

〔解答〕

①　イ　②　イ　③　イ　④　エ　⑤　ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。